

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4392800050
法人名	矢部開発株式会社
事業所名	グループホーム 緑仙館
訪問調査日	平成 20年 6月 10日
評価確定日	平成 20年 6月 17日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4392800050		
法人名	矢部開発株式会社		
事業所名	グループホーム 緑仙館		
所在地	熊本県上益城郡山都町仏原9-1 (電話) 0967-82-3200		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番15号402号		
訪問調査日	平成20年6月10日	評価確定日	平成20年6月17日

【情報提供票より】(平成20年 5月 20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.8人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 10,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/ 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または 月額 20,000 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年 5月 20日現在)

利用者人数	8 名	男性 4 名	女性 4 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 73 歳	最高 93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	蘇陽病院 せいわ歯科クリニック
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設長にとっての念願のホームは地域の住民にとってもかけがえのないホームとしての役割を担っている。旧中学校寄宿舎を改修し1年前に開設され、地域の名跡である緑仙峡に由来した名前が付けられている。寄宿舎の面影が残る長い廊下は筋力低下防止のリハビリとして活用されている。入居者手づくりの葛編みの籠は生活の技が活かされており季節の花の鉢物を入れてさりげなく飾っており、訪れた人をほっとさせてくれる。入居者の半数が男性で役割や出番づくりが工夫されている。今までの生活歴を活かした特技や習慣を配慮し、「自主」と「共生」を大切にした理念を実践している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価であるが、自己評価の実施後に職員間で話し合い既に改善項目をあげている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を日々のケアのふり返りと捉え、今回は職員それぞれに項目を配分して各自取り組み管理者がまとめあげた。既にあげている改善項目と外部評価の結果をもとに検討し、具体的に計画をたてて改善に取り組む予定である。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、まず地域密着型制度の説明をし、運営状況・入居現状・年間行事等の報告を主な議題としている。意見として委員の勉強会や地域で支えあうシステムづくりを目標にしており、今後認知症介護の啓発や地域密着型サービスの拠点となるような取り組みを期待したい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>契約時に苦情相談窓口の案内や玄関に意見箱を設置している。家族の面会時に状況を報告し意見が出しやすい雰囲気づくりに心がけ、出た意見は申し送り職員間で把握する体制ができています。家族会発足を機に、餅つき・門松づくり・花見などそれぞれの家族が主体的な行事への参加があり協力を得ている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭りや小学校の運動会・コンサートに出かけたり、ボランティア訪問・小学生の慰問等で交流を図っている。老人会会長より入居者の出身地区ごとの交流をとの意見もあり、地域との体制づくりで、一人ひとりにあわせた訪問支援も期待できる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は開設準備の段階から施設長と職員との話し合いで作ったもので、リビングに掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議で理念に沿ったケアが実施できているか確認しあい、地域の方には理念が書かれた事業所のパンフレットを配布している。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや小学校の運動会・コンサート(DOYO組)に出かけたり、ボランティアや慰問を受け入れ交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は日々のケアのふり返りと位置付け、全職員がそれぞれ配分された項目に取り組み管理者がまとめた。すでに改善項目を挙げており、外部評価の結果後に具体的に取り組む予定である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催し、運営状況・入居現状・行事等の報告を行なっている。委員から要望・意見が出ることもある。		委員からの意見が活かせるような取り組みや報告のみにならない議題の検討が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設準備当初から相談にのってもらうなどの関係が構築されており、報告や話し合いなどの情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に日頃の近況を報告し、事故や状況変化時には随時電話で報告している。預かり金については出納帳をつけ毎月領収書を添付して送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に声かけをし意見が出しやすい雰囲気づくりに努めている。契約時に苦情相談窓口を案内している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職がわかった時には次の職員の採用を早めに行い、充分な引継ぎをしダメージが少ないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員のキャリアにより順番に参加し、毎月の会議で報告会を行なっている。認知症ケアの講演会は夜勤以外の職員は参加し「今」の情報を共有できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上益城郡連絡協議会に、管理者やケアマネが参加し意見交換をおこなっている。初回は顔見知りとの関係を築くため全職員が参加した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が入居者と顔見知りが多く、入居前には病院や自宅を訪問し情報収集を行なっている。入居当日は昼食を家族と一緒にすることで緊張をやわらげ自然な打ちでの入居に繋がるよう配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活歴を把握し共に生活しながら支えあう関係づくりに努めている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で入居者が行きたい所、したい事、会いたい人などの把握に努め、一人ひとりの思いを介護計画に盛り込んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や入居者の意向や関係機関の情報をもとに、また担当職員の意見を反映しながらケアマネが介護計画を作成している。できあがった計画を家族に説明している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとのモニタリングを実施し見直しを行なっている。入居者の状況変化があったときにも見直しを行なっている。		介護計画に反映できるような記録の記入方法等の検討が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて病院受診を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を尊重している。病院受診も同行し身体状況を常に把握している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族の考えを引きだしているが、事業所としての方針はまだ定めていない。		終末期や重度化についての学習会や勉強会を実施し職員間で十二分に話し合いを行い、その中で事業所としての方針の確立と家族への説明が望まれます。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけに配慮した入浴・排泄支援を行い、プライベートの場では守秘義務を遵守している。記録類の取り扱いも配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の気持ちを大切にした支援に心がけ、職員の思いこみや関わりをふり返り一人ひとりにあった暮らしの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が入居者の好みを聞きながら一週間分の献立を考えている。能力に応じて下ごしらえ、調理、下膳等を職員一緒に楽しみながら行なっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入居者の意思を確認し、希望を尊重した入浴支援を行なっている。菖蒲湯やゆず湯等の季節を感じるよう工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・後片づけ・洗濯物干し・たたみ等の役割や葛あみ・カラオケ・手芸等の特技を活かすような場面づくりを行っている。誕生日には希望する外出に出かけている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて買物や散歩に出かけている。自宅や馴染みの地域への外出も臨機応変に支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠せず自由に出入りできるようにし、国道に面した樹木は下枝を落とし、見通しがきくように工夫している。入居者が出られた時は言葉かけに配慮し一緒に散歩している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム全体での避難訓練は未実施であるため近く実施をする予定である。		定期的な訓練や研修は、職員や入居者の安心に繋がるように実施し、隣近所や地元の消防団等への協力の働きかけも期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取は定期的に行ないチェックシートに記入している。入居者の状況にあわせ食事形態や量を調整している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花のプランターを置き、リビングにはソファを設置し自由に過ごしている。入居者の作品の「葛あみかご」をさりげなく飾り親しみがある雰囲気作りをしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒・テレビ・写真等の持込を一人ひとりにあつた居室づくりができています。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を实践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	矢部開発株式会社
(ユニット名)	グループホーム緑仙館
所在地 (県・市町村名)	熊本県上益城郡山都町仏原9 - 1
記入者名 (管理者)	甲斐 きよ
記入日	平成 20 年 5 月 20 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設準備の段階から施設長・職員で理念を定めている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>開設時の職員会議において、理念を説明したうえで印刷したものを配布した。理念を具体的に実践できるよう、ケア会議において、意見を出しあっている。</p>	<p>理念に沿ったケア内容とは何かを、職員全員で考えて生きたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居者募集のパンフレットに記載しており利用前から伝えられるようにしている。又、リビングの壁に掲示している。地域の方に対しては、運営推進会議で伝えている。今後は機関紙にも理念を掲載して家族・地域への浸透を図りたい。</p>	<p>地域にできるだけ出向き、説明の機会を増やしていくようにする。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>利用者の散歩時や買い物の際、挨拶や会話をするよう心がけている。利用者の近所の方が、買い物ついでに立ち寄りられることもある。</p>	<p>地域住民の方と触れ合う機会を多くしていきたい。</p>
5	<p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>近くの小学校の運動会やコンサート、町主催の祭り等に参加し、地域の方々と、交流の場ができるよう努めている。</p>	<p>地域の行事には積極的に利用者に参加し、交流していきたい。できれば、地域の清掃活動などにも参加していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等で、区長・民生委員より地域の高齢者の話も出るので、当事業所への入居に限らず役立つ情報を示している。		認知症ケアの実践者として、地域の方へのアドバイスが出来るようになりたい。地域の方がまず最初に相談に来れるような場所としたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行う事により、日々のケアの実践を客観的に見ることができ、全員の意識を高めることに繋がった。		初回である為外部評価の結果が出たら全員に配布し、自分たちのケアを振り返る機会にしたい。又、外部評価の結果を踏まえ、ミーティングを行い、改善できる項目からできるだけ早く対応したい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では現況報告を行い、行事等は写真を見てもらっている。意見や要望については、できるだけ早く対応するようにしている。会議内容は議事録として記録している。評価の結果については、実施後の会議で報告及び文書として公開する予定である。		会議が、報告だけの場になりがちなので模索中である。他事業所の取り組み等を運営推進委員より提言いただいているので今後も参考にしたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアを実践するにあたり、地域密着でやれる事などの相談はするが、サービス向上ということではまだ実践できていない。		町の担当者には、開設準備段階から熱心に相談にのってもらっていた為、町との一体感が生まれ話をしやすくなった。町、包括センターと密接に連絡し行政とのチームワークで質の向上を計りたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所としての取り組みはまだない。制度については法的なもので難しく職員が十分には理解していない。		研修等があれば参加したい。又、パンフレット等を備え付け制度の理解を深めたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュース等で報じられた場合は話題にし、何か自分たちの中にそのような種がないか、自身を振り返る材料にしている。もちろん虐待はないが、体の内出血や傷などがある場合は、原因を探る為にも記録している。		法律で定められている犯罪だということをしっかりと認識し、防止に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用相談時や事前面接等、契約までに数回の説明の機会を設けている。契約時には事業所の方針を説明し、書面で同意を得ている。退去(解約)についても、家族の希望の場合は安心して転居先に移れるよう援助をしている。</p>	<p>わかりやすい重要事項説明書を作る等工夫していきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者にへ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>不満や意見が遠慮なく言えるような雰囲気作りを心がけている。又、意思表示できない利用者からも言葉や態度、行動からその思いを察するようにしている。</p>	<p>遠慮して言えない場合があるので、態度や行動からその意をくみとるよう努力していく。又、運営推進会議に利用者が参加できるような仕組みも取り入れたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の事故、身体状況の変化があった時はその都度家族に連絡し、近況報告は面会の際に行っている。金銭管理については、小遣い・医療費等の預かり金は、出納帳を付け毎月領収書を添付して送付している。職員の異動については、分かっている分は早めにお知らせしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱の設置、面会時の問いかけにて意見を頂き、運営に生かすようにしている。又、役場、国保連の苦情相談窓口を契約時に文書でお知らせしている。</p>	<p>ご意見箱の利用は今のところないが、立場上苦情を言にくいということを鑑み、世間話の合間にも話せる雰囲気を作りたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回のケア会議で、経営や職員体制の問題を具体的な数値で示しており、それに対する不満・要望を聞いている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の急用、利用者の急変時は、職員同士の交代や、施設長の応援にて対応している。</p>	<p>増員が望ましいがなかなか難しい為、必要時にはシフトの変更や関連事業所からの応援で対応していきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>本人の希望での転職時には、早めに次の職員を採用し在職が極力重なるようにしている。</p>	<p>関連事業所との人事異動が発生した場合もその後も事業所を訪問するなどして交流を残していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修、認知症ケアの外部研修などに参加し、研修後月一回の会議にて報告している。	法人内での勉強会を強化したい。適任者にリーダー研修を受講させ、他職員の指導が出来るよう研鑽させたい。
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上益城郡のグループホーム連絡協議会に参加し意見交換を行っている。又、近くのグループホームに利用者の方と一緒に訪問し、交流している。毎月1回地区の医療・保健福祉事業所の会合があり、各機関からの連絡及び情報の交換を行っている。	継続して参加する。他の町内3事業所にも出向き交流を深めたい。合同の催しが出来ないか相談していきたい。
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内に「介護従事者のストレス対策講座」を受講した職員がいる。夜勤明けにゆっくり休めるような勤務体制作りに勤めている。	運営者は、職員のストレスサインを見逃さないよう日頃のコミュニケーションを大切にしている。
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人面接や日頃の声掛けで良い点を認め、積極的な仕事が出来よう配慮している。又、資格取得にむけた支援を行っている。	努力や実績を人事考課として処遇に反映したい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居までに数回の面談の機会を設けるようにしている。	希望があれば、半日程度の体験を行いたいが、グループホームの規定上家族同伴でなければ出来ないものもあり方法を探っている。
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	在宅介護の苦勞など家族の話をしっかり聞き、困り事、不安なことを把握し、そのことを1つずつ取り除き、事業所職員を信頼してもらえるよう努力している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から相談を受けた場合は、まず本人の担当ケアマネージャーに連絡し、対応している。入居主導にならないように心掛けている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの面接情報や今までの経過を知っている関係機関からの情報を集め、日常生活のなかで支援が必要な部分を確認しながら、本人がしたいようにできるよう支援している。又、昼食時にあわせて入居していただき、家族も一緒に食事することで緊張を解きほぐす努力を行っている。		身体的な介助の強制がない様、言葉掛け・ボディタッチ等、利用者が不愉快な思いをしないよう心掛ける。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	基本理念にあるように(入居されたみなさまと私たちとの「共通の記憶」を持てるよう日々の暮らしの中で一緒に楽しみ、一緒に悲しみ、共に生活していくことを目標)としている。手芸・手仕事など利用者を人生の先輩として手ほどきを受けている。	○	職員が、利用者の一生の中での最晩年に係われることの喜びを感じ取れるようになってもらいたい。
28	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会を設けており、遠出の外出や館内での行事など家族の参加を募り協力していただいている。本人が心配していること、希望していることを家族にお伝えし、どう対応していくか共に検討している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活の様子やその時の写真などを家族に見ていただいたりして、面会時のコミュニケーションを図っている。入居により会う機会が少なくなったということのない様、誕生会等での面会を促すお願いをしている。		家族が地元にはいない場合は疎遠になりがちだが、利用者に時々子供さんの話をしたりして思い出してもらっている。これからは本人からの絵手紙を送ったりしたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診の帰りに自宅に寄ったり、散歩がてらに会いに行ったりしている。		地元の家があり友人知人がいる利点を生かしていきたいが、本人の認知症によりうまく人付き合いが出来ない部分は職員が仲介していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相性や性格はそれぞれであり、トラブルにならないよう配慮しながら、外出や共同で行なう作業などの中で利用者同士が関わり合えるように支援している。	○	利用者同士名前で呼び合えるようになるといい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡なられた方や退去された方へメッセージを添え機関紙を送っている。	○	開設と同時に入居いただいた方と家族は、職員と同じく開設メンバーだと感じている。一度で終わらないようにしたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい暮らしの実現へ向けて、好きなこと、やりたいこと、行きたい所、会いたい人の把握に努めている。本人や家族に聞き介護計画にとり入れている。		言葉に表現できない方に対しては、「嫌なことは嫌」なんだと捉え無理強いをしないようにしている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人(家族)より聞き把握に努めている。入居される前の担当ケアマネージャーより情報をいただいている。又、当事業所の場合、利用者を以前から見知っている職員をもち、入居に至る経過が良く分かるケースが多い。		利用者も職員も地元という利点を最大限に活用していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	体調や気分に応じて、無理強いせず参加を促したり、外出に誘ってみたりと本人の苦痛にならないよう努めている。時には過介護傾向になることもある。		できること、できないことをスタッフが把握し、その人のペースに合った一日が送れるよう支援していきたい。出来る事までしてしまわないように注意したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	聞き取りには時間をかけ、定期的なミーティングを行っている。		事業所主導の計画にならないよう、積極的な意見交換が出来る機会を設けたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月、6ヶ月とモニタリングを行い見直しをしている。身体的変化があった場合も見直しを行っている。現在のところ対応できない変化は生じていない。	○	今後もきめ細やかに全員で行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に介護日誌に記録している。食事、入浴、排泄チェック表を作成し、確認している。日々の記録に気づきや利用者の言動などを記入し、共有している。		記録の仕方は改良を重ねより良いものにしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望があれば、遠方への病院受診時の付き添いや家族の館内宿泊等の支援を行なっている。		設置基準により、ショートステイが可能になれば幅が広がると思う。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員・区長は運営推進会議のメンバーであり、会議等で協力要請をしている。近くの小学校からは小学生の慰問がある。		利用者は子供たちとの交流を何より喜ばれるので、学校等に協力をお願いしていく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスの利用者はいない。		必要に応じてやっていきたい。介護サービスでは今のところ事例が無いが、何が利用可能か行政とも相談したい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への参加があり、町の見解等も聞けるので会議時に相談している。		包括支援センターとしての専門的な知識があれば、民間に広める活動をしていただき、事業所としての理解を深めたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に、入居前から利用していた病院にかかることを前提にしている。幸いにも当事業所では皆さんのかかりつけが協力病院になっている。協力病院以外の受診時には職員を同行させている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域に専門医がない為主治医に相談している。		困難なケースや状況になった場合には、主治医に相談の上で専門医への受診支援を考えている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	計画作成担当者が看護師資格をもっており、健康管理を実施している。協力病院の看護職員にも相談やアドバイスを受けている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはスタッフが心配し面会に行き、病院関係者との情報交換を行っている。又、重度になった場合の事業所でできるケアの範囲についても説明し対応している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医、家族とそれぞれの考えを伺い確認している。現実的にどのくらいの状況レベルまで対応できるかといった方針は明確ではない。		家族や本人の意向に応じ事業所でできる範囲内であれば対応していきたい。範囲内については主治医に相談し確認し協議していきたい。又、対応指針を作成し家族に説明しやすいようにしたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化し看取りの必要性が生じた場合や、終末期に向けたチーム支援について具体的な方針は明確ではない。		本人のレベル低下に伴い主治医、家族、職員と検討していきたい。ただ、近隣に往診をしてもらえる内科病院が無いことが悩みである為、この問題を解決したい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅から入居される場合は、自宅での生活環境に近い状況(物的位置)配慮している。又、思い出の品を持ってきていただいている。退居され、別の居所へ移られる場合は情報を提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入浴、排泄は、1対1で支援している。基本的には敬語での言葉掛けだが、反応や状況によっては、方言などその時に応じた声かけをしている。個人の記録は事業者外への持ち出しを禁止している。</p>	<p>自分たちと同じように人に聞かれて嫌な話題はみんなの前でしない。利用者の身体、生活、精神面に関する情報を漏出することがないように守秘義務を今後も遵守する。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自分の気持ちを伝える事のできない方は表情や態度や仕草などから気持ちをくみとるようにしている。時にはなかなか理解することのできないこともある。</p>	<p>意思表示しやすい雰囲気づくりや環境になるようにしていきたい。利用者の家族から必要な情報を得て本人の意見に添えるような働きかけをしていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>できる限り希望に対応するようにしている。場合によっては後日に変更し対応している。入浴も利用者に聞いて返事をもってからにしている。</p>	<p>介護者の一方的な思い込みで関わらないよう注意していきたい。利用者やスタッフ間のコミュニケーションを大切に、その人らしい生活ができているのかを振り返るようにしたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>店に出かけたり、家族の方が来られ散髪されたり、カットは美容室で、髪染めは職員がするといったように本人の希望に応じている。</p>	<p>今後できるだけ利用者のライフスタイルを保持し支援していきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>皮むき、盛りつけ、配膳など手伝ってもらい、同じテーブルを囲んで食事している。おやつ作りも手伝ってもらっている。メニューについては、職員が用意したものが多い。</p>	<p>旬の食材を取り入れて、季節感を大切に、利用者の好みや希望を取り入れていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>晩酌、タバコ、飲み物は状況に応じて支援している。買い物の希望があれば一緒に行っている。</p>	<p>体調を損ねないよう注意しながら、今後も楽しんでいただきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介護記録により排泄チェックをし、時間や一人ひとりの状態を把握し、誘導している。はくパンツを布パンツとパット使用にし陰部洗浄、清拭にて気持ちよく過ごしてもらうようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時は本人に確認を行ない、本人の意志を尊重している。ゆず湯・しょうぶ湯など行い、季節行事を楽しんでもらっている。	○	今後も利用者の希望や体調に合わせて、気持ちよく入浴できるよう支援する。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の体調、座位姿勢など注意し、疲れ具合などに応じて居室のベットや、リビングソファーに休んで頂く。夜間寝つけない方には、会話したり、傍にいるなど安心して眠れるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の出来る範囲内で手伝ってもらえるよう支援している。例えば、家事では洗濯物干し・たたみ・床掃除・調理準備。又、特技を生かして手芸・生け花などをやっている。	○	戸外での草むしり・花植え等も続けていく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者1名が自己管理されており、希望時に買い物に出かけ買い物できるよう支援している。	○	買物に行きレジで支払っていただく等やっていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や自宅、馴染みの地域など希望に応じて臨機応変に対応し、外出している。	○	外出の機会は増やしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食をしたり、家族参加の花見を行なった。秋には紅葉狩りを計画している。		年間行事は家族会と共に行っているが、日帰り旅行等ができればと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をして欲しいと希望があるときには電話をし、安心していただくようにしている。		文字が書ける人には、家族や知人へ便りが出来るように取り組み、代筆や絵手紙という形で思いを伝えられるようにしていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問に関してはいつでも可能であり、居室やリビングにてゆっくり過ごせるようにしている。リビングにはソファやテーブル・椅子を置いている。		家族はよく訪問していただいております、それぞれゆっくり出来る場所で過ごしていただいております。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はない。その人が嫌がったり意欲低下につながることはしたくないと考えている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	すべての出入り口には、自由に出入りが出来るように鍵をかけないようにしている。夜間は鍵はかけている。外に出られる時は一緒に出ている。		日中は誰もが自由に出入りできるようにしている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在は一人ひとり把握し見守りを行うように心がけている。職員が一箇所に固まらないようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品や洗剤等害のあるものは棚の中に保管している。異食の可能性のある人は注意している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	自室におられる時は頻回に訪室している。移動の時は必ず付き添っている。所在の確認、座位での入浴・食事と安全に配慮している。		自室で職員不在時に転倒されたケースがあった為、今後も頻回の訪室、利用者の意志に気を配っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行なっていない。		応急手当・初期対応の訓練を定期的に受けたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練をまだ実施していない為不十分な点がある。	○	区長・派出所を通じ地域の協力が得られる体制を作りたい。特に夜間の対応について検討が必要である。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	制限を決めない中で生活できるよう支援していきたく説明し、家族の意向を聞き話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェックや一緒に過ごす中で日頃との違いに気づき、看護師に報告し、必要に応じ受診している。		日頃の状態の観察で、どのように早期発見出来たのかという事を記録に残し今後の対応に活用していきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師が行い利用者の処方せんの内容はファイルにまとめてあり、いつでも見ることができるようにしてある。誤薬がないよう日付と名前を記入している。臨時処方時は申し送りを行っている。		看護師以外の職員も薬に対する目的、副作用など理解が出来たうえで対応できるようにしていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食後のトイレ座位をうながしている。水分や食事摂取量をみながら把握している。必ず排便チェックの記録を記入している。		疾患によっては下剤を服用している方もいるが、乳製品などを摂るなどして自然排便につなげていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後必ず口腔ケアを行なっている。虫歯や義歯の具合が悪い時は歯科受診を支援している。		年に一回歯科検診やブラッシング指導をうけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて食事量を調整したり、主食をお粥にするなどしている。水分摂取は一日二回のおやつで一人ひとりのペースで確保できるよう支援している。		食が進まない利用者に対して個人の好み意向を尊重しながらバランスのよい食事が出るよう心がける。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種の実施、手洗い、室内の換気必要に応じて手袋・マスクを着用している。、感染症に対する予防や知識を得るためにマニュアルや資料を回覧している。		予防接種の継続と発生時の蔓延防止に努める。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	三日毎に食材を発注し、いつも新鮮な食材を使用している。調理器具は使用の都度洗浄後高温で乾燥している。必要に応じてハイター除菌を実施。		食中毒や感染症を発生させないよう衛生管理と知識を高める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには季節の花をプランターに植え自由に出入り出来るようにしている。		地域の方や子供達が気軽に出入り出来るような雰囲気作りをしていく。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内には外からの日差しが入り、外の本々や花が廊下やリビングから見える。又、リビング・廊下には思い出の写真や行事の写真の写真を貼っており、摘んできた草花を生けたりもしている。		季節ごとの飾り付けをしその季節を感じていただけるよう心がけている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を数ヶ所に置き、他者との交流や一人の時間もゆっくり過ごして頂けるような空間がある。		一人の時もいつも静かに見守り、時に寄り添う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の一番落ち着けるようにベッドの位置や写真を貼ったりしている。入居時に、自宅で使っていたものや思い出の品々を持ってきていただいている。		大事にされている物や落ち着くものを家族に持ってきていただき安心できる場所作りに努めたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は温度調整の為や、空気のおよみ、臭いがないよう出来るだけ行なっている。臭いの場合元になるものを絶つよう心がけている。寒冷地でもあり冬場の暖房使用時にはこまめに温度調節を行っている。夏場の冷房も冷えすぎないように、何れも職員の体感温度で判断しないように努めている。		利用者の状況に応じて換気を行い気持ちよく過ごしていただけるよう努める。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーとなっている。リビング・廊下には手摺があり、身体機能に応じて見守りや介助にて安全に移動できる。		利用者一人ひとりの残存機能を把握し、職員間で情報を共有することで自立に結び付けていく。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりに出来る事があり、それが夫々に違うので上手にフォローし自尊心を傷つけないようにしている。		理解が難しい部分も声かけや見守りにより自立出来るように取り組む。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りには広い空間があり、天気の良い日は散歩や日光浴やおやつを取ったりしている。		利用者と沢山の花を植えたりと一緒に楽しい時間を共有出来るようになればと思う。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム緑仙館 理念

\* 私たちは、入居されたみなさまが、いつまでも住みなれた地域社会のなかで「自分らしさ」と「ふれあい」つまり「自主」と「共生」を大切にできる場所を提供いたします。

\* 入居されたみなさまと私たちの「共通の記憶」をもてるよう、日々の暮らしの中で一緒に楽しみ、一緒に悲しみ、共に生活していくことを目標とします。

理念に基づき、利用者が自分らしさを大切に生活していけるように、若い頃からの習慣を大事にしている。例えば、お酒・タバコ等も極力希望に応じ、好きな歌を流し一緒に歌ったりしている。外出も行きつけの場所等一人ひとりの希望に沿えるよう支援している。

又、利用者の意欲を大切にしたいケアを実践している。リスクが伴う場合は、見守りながら本人の意欲をそぐことのない様に支援している。